

三芳町学校再編ニュースレター

【 vol. **03** 】

町立小中学校の再編の検討内容をお知らせします！

+++

学校再編等審議会の取り組みは？

昨今の人口減少、少子化をはじめとした社会情勢を踏まえ、今後もよりよい教育を実現していくため、三芳町教育委員会では、三芳町小中学校適正規模適正配置検討委員会への諮問・答申を経て、令和5年2月に「三芳町立小中学校適正規模適正配置の基本方針」を定めました。この基本方針に則りつつ、今後子どもたちを取り巻く社会情勢等を鑑みながら、将来を担う子どもたちによりよい教育環境を整備し、充実した学校教育の実現を図るため、「学校再編計画」を策定していくこととしています。

この計画の策定にあたり、有識者、保護者や地域の代表などで「学校再編等審議会」が開催され、町及び教育委員会からの諮問を受け、三芳町の学校再編がどうあるべきかについて、令和5年7月より議論を重ねています。審議会では、これまでに、学校規模が教育活動、学校運営にもたらす事項、学校を再編（統廃合）した場合の課題とその対応についての検討や小規模校に在学・就学予定の家庭を対象とした意識調査等を実施してきました。

三芳町立小中学校適正規模適正配置の基本方針

三芳町では、「多様な人間関係を育むため、適正な学級集団の規模であること」「一定の教職員数が確保でき、経験年齢や専門性等、バランスのとれた教員集団であること」「中学校は全ての教科で専門の免許を有する教員数が確保できる規模であること」などの教育的観点と、小中学校適正規模適正配置検討委員会が実施したアンケート結果に基づき、下記の規模と配置を学校の適正基準として定めています。

適正規模

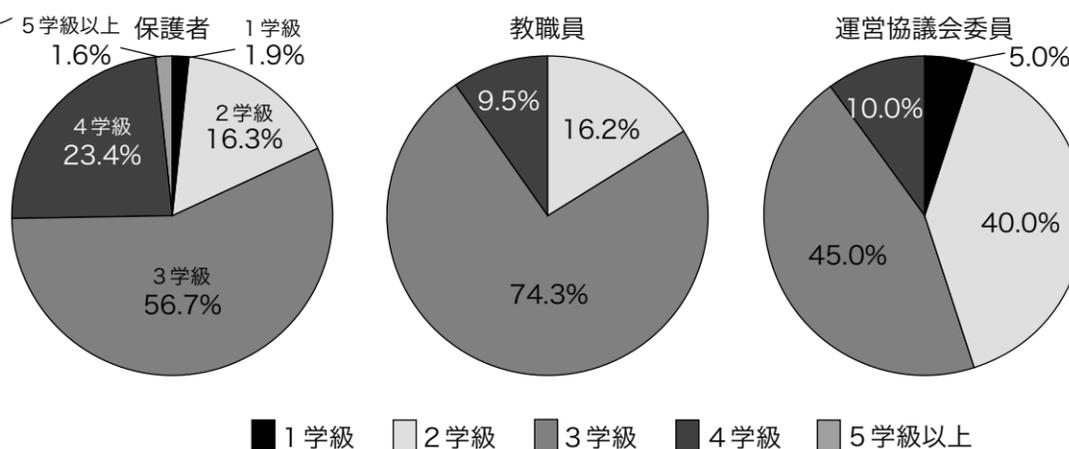
- ①小学校・・・多様な考え方に触れるとともに、新たな人間関係を築くため、クラス替えが可能である1学年2学級以上
- ②中学校・・・小学校と同様にクラス替えが可能であるとともに、全ての教科で専門の教員数を確保できる、全学年で12学級以上

適正配置

- ①小学校・・・おおむね3 km 程度
 - ②中学校・・・おおむね4 km 程度
- ※上記の距離を超過する場合は、安全面に配慮した通学方法について検討する。

参考

最も適切だと考える「1学年あたりの通常学級数」(小学校)

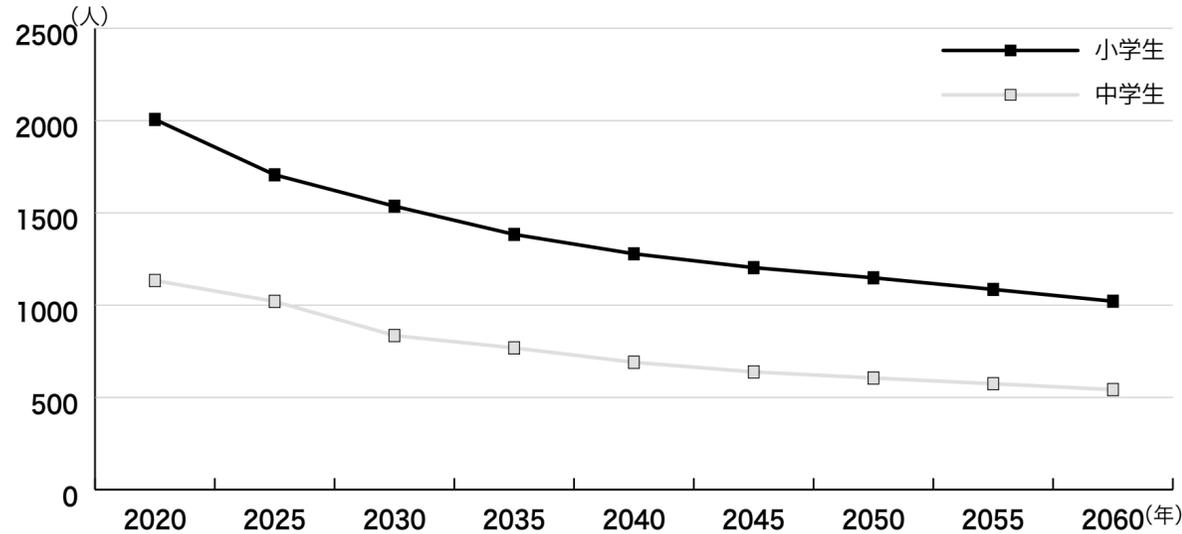


> その他詳細やアンケート結果については、「三芳町立小中学校適正規模適正配置報告書」をご覧ください。

資料1

人口推移と学校の現状

三芳町における小中学生の人口推計は下記の通りです。
(2019年の人口を基準とし、コーホート要因法を用いて作成)



資料2

学校施設の現状

三芳町の学校施設は、大半が1970年代に建設されています。この時期は、三芳町の人口が首都圏のベッドタウンとして爆発的に増加した時期でもあります。また、第2次ベビーブームと言われる時期であり、昭和48(1973)年の日本の出生数は約209万人となり、令和4(2022)年の約78万人と比較すると2.6倍もの差があります。

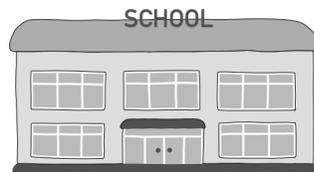
「三芳町公共施設マネジメント基本計画」では、校舎等の耐用年数の目安を60年と設定しており、改築についての検討を要する時期となってきました。

学校名	児童生徒数(人)			延床面積(m ²)	建設年
	建設時	R5	R11		
三芳小学校	615	465	232	6,570.64	S44(1969)
藤久保小学校	576	720	646	8,124.66	S46(1971)
上富小学校	195	88	75	3,574.05	S47(1972)
唐沢小学校	740	404	273	6,269.38	S50(1975)
竹間沢小学校	535	199	160	5,435.67	S56(1981)
三芳中学校	514	354	265	5,858.14	S48(1973)
三芳東中学校	527	372	297	7,119.10	S52(1977)
藤久保中学校	602	293	383	6,490.53	S59(1984)

【参考】学校の維持にかかるコストの試算結果は下記の通りです。(6,000m²規模の小学校1年あたりで試算)

改築費^{*1}
3300万円

学校施設
関連経費^{*2}
2650万円



人件費^{*3}
730万円

※1 60年で計算(総額19億8千万円)。「地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会報告書」記載の単価を基に計算
 ※2 光熱費、通信費、手数料、委託料、修繕料、工事費、リース料のH29~R3の実績値を基に計算
 ※3 町が独自に雇用する町費会計年度任用職員の雇用条件を基に計算

資料3

対象校のクラス数推移

「三芳町立小中学校適正規模適正配置基本方針」に該当する竹間沢小学校及び近隣校である唐沢小学校の今後6年間のクラス数推移は下記の通りです。 ※()内は児童数 ※令和6年5月10日時点

竹間沢小学校

	R6	R7	R8	R9	R10	R11
1年	1(28人)	2(37人)	1(29人)	1(27人)	1(22人)	1(17人)
2年	1(32人)	1(28人)	2(37人)	1(29人)	1(27人)	1(22人)
3年	1(33人)	1(32人)	1(28人)	2(37人)	1(29人)	1(27人)
4年	2(37人)	1(33人)	1(32人)	1(28人)	2(37人)	1(29人)
5年	1(25人)	2(37人)	1(33人)	1(32人)	1(28人)	2(37人)
6年	1(36人)	1(25人)	2(37人)	1(33人)	1(32人)	1(28人)
全校児童数	191人	192人	196人	186人	175人	160人

唐沢小学校

	R6	R7	R8	R9	R10	R11
1年	2(52人)	2(49人)	2(46人)	2(44人)	2(44人)	2(38人)
2年	2(61人)	2(52人)	2(49人)	2(46人)	2(44人)	2(44人)
3年	2(61人)	2(61人)	2(52人)	2(49人)	2(46人)	2(44人)
4年	2(67人)	2(61人)	2(61人)	2(52人)	2(49人)	2(46人)
5年	2(73人)	2(67人)	2(61人)	2(61人)	2(52人)	2(49人)
6年	2(63人)	2(73人)	2(67人)	2(62人)	2(61人)	2(52人)
全校児童数	378人	364人	337人	314人	296人	273人

新しいマンションや戸建てができるけど、子どもは増えないの？

これまでの町の人口推移や今後の人口推計から考えると、三芳町も全国的な人口減少の流れと同様の流れとなっていくと推察されます。これまでに行われた同様のマンション開発による影響から勘案すると、クラス数が増加するほどの影響はないと考えられます。

【過去のマンション建設からの考察】

- ・完成後から1学年あたり10名程度の増が見込まれる
- ・5~10年後に1学年あたり20~25名程度増が見込まれる
- ・15年後(2040年頃)には、5名程度に落ち着いていく

【人口減少等からの考察】

- ・少子化の進行により、5年で1割程度子どもの数が減る
- ・5年後の新入生は10名程度減少見込みで、その傾向が続く



三芳教育が目指すもの

三芳町では、町の最上位計画「三芳町総合計画(令和6年度~令和13年度)」から、教育に関する政策・施策をまとめた「三芳町教育大綱(令和6年度~令和9年度)」を策定し、学校におけるこれからの教育の方向性についても示しています。(以下、教育大綱等から一部抜粋)

教育大綱 基本理念

誰もが幸せに生きる夢の実現に向けて

基本方針1: 未来を切り拓く力の育成(学校教育)

教育行政重点施策

主体的に学び続ける人材の育成

社会を取り巻く環境は大きな変化の中にあり、多様な価値観を持つ人々と共創しながら新たな価値観を創造する力を育むことが求められます。子どもが自ら課題を見つけ解決していくとともに、協働的な学びを通して主体的に向かう力を育成するために、各教科や総合的な学習の時間等において、「探究的な学習」を中心とした授業を充実します。その際、様々な魅力ある大人との出会いを通じた学習活動を展開したり、課題解決の際にICTを効果的に活用したりし、将来の夢や希望を描くことができる子どもを育成するとともに、新しい時代に求められる資質・能力を養います。

学校規模による課題とは？

+++

標準規模校、小規模校、それぞれに課題と良い部分があります。下記に、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（文部科学省）」より要約・抜粋したものを記載します。



←全文はこちら

小規模校のよさ

- ・教師の目が行き届きやすく、一人一人にきめ細かな指導が行いやすい
- ・意見や感想を一人ずつ発表できる機会が多くなる
- ・一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ・運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい

小規模校の課題

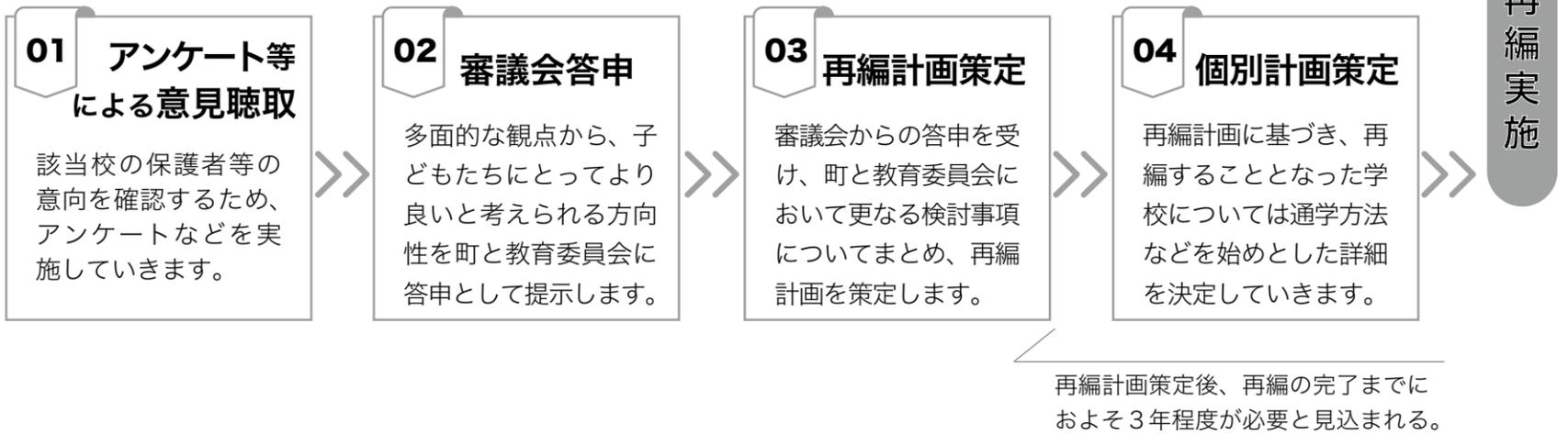
- ・学び合いや多様な物の見方・考え方に触れる機会が少なく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ・多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい
- ・教員個人の力量への依存度が高まり、教員の負担も大きい

今後のスケジュールは？

+++

現時点での想定は、下記の通りです。

03 以下は再編となった場合の流れ。説明会などを開催していく。



学校を再編するにあたって懸念されることとその対応

+++

再編が決まった場合の子どもの心のケアは？

再編が決まり次第、直ちに対策を講じます。再編する学校同士の交流を増やすことや学校が変わることに不安を感じる子どもの相談の場を設けるなど、適時適切な対応を図ります。

学校の跡地はどうなるの？

学校再編によって使わなくなる校舎・校庭が発生すると決定した後、その利活用について、学校が地域で果たしている役割と併せながらどのように活用していくかを検討していくことになると考えられます。

CHECK

これまで開催の審議会内容やアンケート結果等については、町のホームページからご確認いただけます！



ご意見を募集します

アンケートの実施について

三芳町学校再編等審議会では、町と教育委員会への答申を作成するにあたり、学校再編についての意向調査を、直接の影響を受ける学校に通うもしくは通う予定のある子どもの保護者の方を対象に、下記の通り実施します。

対象：竹間沢小学校に通うもしくは通う予定のある子どもの保護者（1世帯あたり1回）

実施期間：令和6年6月12日（水）～6月25日（火）【2週間】

回答方法：町のアンケートシステムを利用して回答（別途、回答用URLを学校を通じて送付するほか、未就学児のみの世帯には郵送にて送付します）